



湘南桜友会報

第7号 平成20年6月1日発行

発行責任者 竹内 猛
編集責任者 内海 孝夫
事務局 茅ヶ崎市中海岸 4-4-11
浦田憲一方

～創立5周年を迎えて～

湘南桜友会会長 竹内 猛 (昭和33年政経)

皆さん、今晚は。

本日は、^{ゴールデンウィーク}GW 後初の休日にもか拘らず、湘南桜友会第5回総会にご出席賜わり誠に有難うございました。

会員の皆様のご協力のお陰で、「輪を拡げ絆を強くしよう」という本会の基盤作りも、この4年間

でほぼ完成したのではないかと考えています。どうも有難うございました。

この会の目的の第一は、「会員の親睦ならびに互助活動を図ること」であります。

地引網や果物

^{バーベキュー}狩り BQ, そして年忘れクリスマス会などの恒例の懇親イベントに加え、「ウォーキングの会」「ゴルフ会」「座禅会」など、所謂クラブ活動も年々活発化して参りました。これらの活動が、これからは湘南で暮し、或いは働く同窓生の豊かで楽しい生活の一助になることを願ってやみません。

また、お隣りの鎌倉桜友会や姉妹支部である長野桜友会の皆様との交流を更に深めれば、私達の生き甲斐も更に大きくなるのではないかと考えております。

さて本会は、今年が設立5周年ということになります。この会の目的の第二項は、「学習院に対する援助・協力」、第三は「地域における交流・社会奉仕・厚生活動」であります。

今年からは、今申しあげた「母校への協力」「地域への奉仕」といった二つの大きな目的に、いよ

いよ取り組むこととなります。これ迄の基礎固めの時代と違って、今後は無手勝流では立ち向かえません。

組織として取り組む為には、ある程度の財政基盤を築く必要があります。

現状をふまえ、これからどういう方向で動くかについては、今後の役員会で慎重に検討いたしますが、会員の皆様の中に名案をお持ちの方がおら

れましたら、ぜひ事務局までご一報頂ければ、有難く思います。

今年も本会の活動について、会員諸姉兄のご協力を併せてお願い申し上げます。

また、本会の運営につきまし

ては、浦田幹事長兼事務局長、北村・番場事務局次長をはじめとするアクティブな役員の皆様のボランティアがあつて成り立っている訳でございまして～会報やホームページの運営を含め内海幹事のご努力は無論ですが～下手な会社を上回る組織力と活躍に、会長としてこの席をお借りして、皆様にその事をご報告するとともに、手弁当で走りまわって下さる役員の皆様に心から感謝申しあげる次第であります。

最後になりましたが、ご多用中のところ、遠路はるばるご出席を賜りました波多野院長先生、桜友会大井副会長はじめ、ご来賓の皆様には、心から歓迎と御礼を申しあげ、総会のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

H20. 5. 10 (湘南桜友会第5回総会挨拶要約)



～第5回総会／懇親会の報告～

5月12日(土)に58名の会員出席のもと、平成19年度事業報告と決算及び20年度事業計画(案)と新役員人事(含新役員3名)が満場一致で承認されました。



引き続き、波多野院長先生、桜友会大井副会長初め、ご来賓5名の方々を含め、総勢72名のご出席のなか、土井利紀さんのグランドハーブの演奏を聴きながら、盛大な懇親会が催されました。

平成19年度決算報告

収入の部		支出の部	
年会費	344,000	通常運営費	281,020
事業収入(総会 地引網他)	1,526,500	事業費(年 忘れ会他)	1,401,647
受取利子	367	次期繰越金	1,324,586
前期繰越金	1,136,386	うち慶弔積 立金162,200	
合計	3,007,253	合計	3,007,253

《会員の紹介》

幹事 谷口興文 (昭和43年経済)

「トンネルだ、トンネルだ、ターノシーな」。小さい頃、母親から「明日はお婆さんのところへ行くよ」といわれると汽車とトンネルと野山を想像し眠れませんでした。故郷は佐賀県の唐津ですが、単線の汽車に乗って海岸線を走る時、それはそれは小さな30メートル位の短いトンネルを8つもくぐるのです。わくわくして兄と汽車の座席の上でハチャイだものでした。先日クラス会がありまして、その路線に乗りましたがトンネルが近くなるにしたがって小さい頃の気分に浸って興奮し、



キョロキョロしながら運転手の後ろから写真をストロボでバチバチ撮っていましたが、運転手がドアを開けて出てきまして「お気持ちは解りますがネ、運転に支障をきたしますのでお止めください」といい年をして怒られました。唐津は秀吉の朝鮮出兵の時、全国から20万もの軍隊が集結し、島づたいに出兵したのですが、秀吉は大将ですからすることがなく能三味の日々で、各大名は秀吉の下手な能を見せつけられ家康の時代に能が一気に復活したらしいのです。風光明媚な地域で、山上憶良らによって多くの歌が詠まれ、万葉集に載っています。私の趣味は、それら昔の歴史上の山城などの現場にレンタカーで登ったりして、昔を想像することです。

~~~~~

《会員の近況／活動》

～母校・学習院への想い～

原 喜彦 (昭和32年政経)

九州・小倉出身の私が学習院大学を受験した理由は、教授陣に錚錚たるメンバーが揃っており、その教えを受けたいという思いからだった。



私は、「勉強とスポーツの両立」を理想としていたので、入学と同時に硬式野球部に入ったが、東都大学リーグの第1部に昇格したばかりの学院としては、その地位をキープすべく、毎日午後1時から夕暮れまで練習に次ぐ練習であった。これでは勉強との両立は無理と判断し、神宮球場での早稲田との交流試合に9番・三塁手として出場したのを唯一の実績に退部した。

卒業から51年。43年間の会社生活を終えて8年目になるが、時折、母校・学習院大学の在るべき姿について思うことがある。私が入学して以来55年になるが、野球は東都大学リーグの第3部に甘んじており、学問の面でも入試難関校とは認められていない。そこで、何とかして「学問とスポーツそれぞれの分野で何かひとつ他校を凌駕するものを持った大学」を実現してほしいのである。例えば、“多くの外交官試験合格者を出し、剣

道かボートで強豪校と目される大学” というのはどうだろうか。

～交流いろいろ～

幹事 深江健治郎 (昭和36年文学)



昨年6月にコンピューター会社を退職し、サラリーマン生活に終止符を打ちました。今は、囲碁、ゴルフ、読書など「自己完結」を目指して楽しんでいます。

仲間との交流も、中学・高校(鹿児島)、大学(昭和寮、学部)、かつての職場(NHK)・勤務地、同業他社の方々など全国各地で、声がかかれれば出来るだけ参加することにしています。

地元でのお付き合いは、数年前、三菱電機の方々など約30人で立ち上げた大船にある碁会所へ週一回は出かけています。私の棋力は3段程度。かの吉田兼好は、徒然草の百八十八段で「人生は短い。優先順位をきっちり見極めて・・・」と碁に絡めて、人生の深遠を綴っています。兼好法師は相当の打ち手だったようです。大河ドラマの中でも篤姫が若き日の小松帯刀と対局している姿が紹介されています。碁は面白いゲームです。

また、NHKの入局研修時に金沢で一ヶ月寝食をともにした仲間数人と定期的に会食・懇親の場を持っていますが、最近では、社会的なテーマについて、議論をしようと言うことで、憲法、北朝鮮問題など話し合っています。各自、持説を開陳し、結構盛り上がります。交流の形もいろいろです。湘南桜友会でも素敵な仲間が増えました。

～多文化な子ども達と共に～

山縣紀子(昭和34年女子高等科)

34年に女子部を卒業いたしました。現在の活動をとのこと、少し紹介させていただきます。現在私は、様々な国から様々な背景・事情を抱えた家族の一員として、来日した子どもや青少年の支援をしています。彼らは家族としてやむを得ず来たので問題が山積です。

J君兄弟は中学中退で来日、学校に入り損なったまま資格がなくなり、昨年夜間中学に入った時には20才と22才。母国語も日本語も分数も困

難なのに、昼間の高校へ入れなければ結果はほとんど身寄りのない母国へ送還されるか、超過滞在者となります。



地域協力募金

B君は父親の出稼ぎと再婚で、親戚間を転々とした後に呼ばれたものの、虐待に近い継母のため居場所をなくしています。さらに問題は、学齢超過の理由で中学に編入出来ずに入った夜間中学では、1日1～2教科の勉強で言葉のケアもなく、これでは高校は望めません。

ほんの一例ですが、問題はこうした外国籍の子どもに対するきちんとした国の方針がないまま、彼らの移住が増加していること。外国人に労働力だけ期待している政策の影で、認められれば充分に力を発揮できる存在なのに、こうした行き場を無くした子ども・青年達が増えていることです。この機会にこうした状況を少しでも皆様に知って頂ければと、書かせて頂きました。

～応援ありがとうございました～

佐藤清崇 (平成17年大学院)

去る2月17日の藤沢市議員補欠選挙に民主党公認で出馬致しましたが、力及ばず皆様に申し訳ない結果となりました。



しかしながら、会員の皆様に多大なるご支援を賜りまして、多くの市民の皆様のご支持を頂くことができました。心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



【19年度(後半)の事業・サークル活動報告】

\*クリスマス・年忘れ懇親会

12月9日(日)に平成19年の最後を飾る懇親会として開催され、会員、同伴者、お子様を含め65名が参加されました。

アトラクションとして「歌う作曲家兼作詞家兼ピアニスト」で会員の秦万里子さん(昭和49年女子高等科)のピアノコンサートで大いに盛り上が

りました。

また、滋賀県より参加された会員の有村国広さん

(昭和32年政経)より、

貴重な白酒(シロキ)を参加者全員にご寄贈いただきました。



**\*鎌倉・東慶寺散策他**

2月13日(水)、恒例の東慶寺散策(観梅)と安倍院長の墓参が、満開の紅梅と、素晴らしい好天に恵まれて行われました。湘南桜友会、昭和寮会他の仲間が合流し、総勢30人で座禅体験と和尚の講話をさく事が出来ました。



**\*20年度の春のサークル活動**として、5月14日(水)に企画していました「20・春ウォーキングの会」は当日が天候不良のため、やむなく中止となりました。

次回は10月22日(水)を予定しています。

**【20年度の事業・サークル活動計画予定】**

- 7月26日(土) 地引き綱大会
- 8月 下旬 バーベキュー・果物狩り大会
- 9月23日(祭) SUC 交流・懇親会
- 10月中旬 秋季「ウォーキングの会」
- 11月中旬 ゴルフ大会
- 12月初旬 会報第8号発行
- 12月14日(日) クリスマス・年忘れ懇親会
- 21年2月 鎌倉・東慶寺他散策
- 事業年度内 「文化事業など地元への還元となる事業を企画」

**～幹事長報告～**

浦田憲一 (昭和37年政経)

最近配布された桜友会5月号に記載されていますが、私は昨年5月に桜友会本部組織の評議員に選任され、組織委員会、講座委員会に所属して1年が経過しました。組織委員会は全国49支部、海外21支部の活動支援、組織化推進を目的としており、春、秋2回の開催される会議には院長、大学長が出席され各支部の活動報告、学校に対する要望事項等活発な意見交換が交わされますので、何かご意見等がありましたらご一報下さい。

また講座準備委員会は、世界の中の日本の国のあり方を考える目を養ってもらおうという目的で桜友会独自の講座としてスタートしたフォーラム

(目白の百周年記念会館)で、アーミテージ元米国防務長官(平成17年)、「国家の品格」の著書でお茶の水大教授藤原正彦氏(18年)、作家曾野綾子氏(19年)の実績があり、今年11月27日(木)に新型万能細胞を開発した京都大学教授山中伸弥氏の講演を予定しておりますので、皆様のご来聴をお待ちしております。

尚、今年から新入社員に対するサポートセミナーを4月11日に開催、講師として当会会員の高澤みゆきさん(平成11年文学)が選ばれました。

**～事務局便り～**

**\*本年度の役員改選**で橋本千鶴子(昭和31年短大)、後藤純夫(昭和36年政経)、尾高忠昭(昭和40年政経)、吉田美桃(平成11年経済)のみなさんが退任、野口記一(昭和41年経済)、黒山恒夫(43年法学)、板原直枝(54年文学)のみなさんが新任されました。

**\*お陰様**で当会々員数は平成20年3月31現在、210名(男性125名、女性85名)となりました。

会員のご家族はすべての行事にご参加いただけますので、会員ご本人の都合がつかなくても、ご家族だけのご参加を大歓迎しております。

**編集後記** 毎度の事ながら、会員の近況/活動状況や、皆さんが紹介したい記事をお待ちしております!  
(編集グループ 品川、機原、内海)